

# 指導要領の改訂にあたって



2018/9/28

## 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

### 「何ができるようになるか」を明確化

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で再整理。

### 図画工作科もこの3点で整理

- ①知識及び技能
- ②思考力・判断力・表現力等
- ③学びに向かう力、人間性等

## 第7節 図画工作

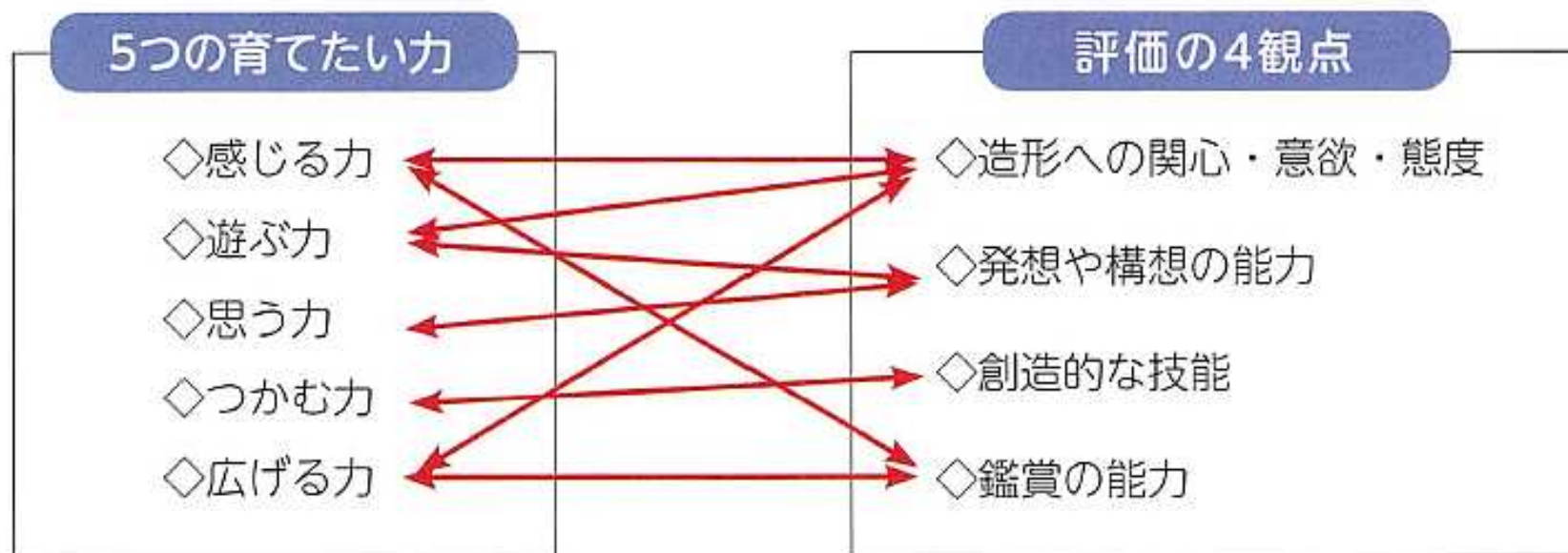
### 第1 目 標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。 **知識・技能**
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 **思考力・判断力・表現力等**
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。 **学びに向かう力、人間性等**

# 現行指導要領

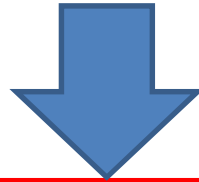
表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、作りだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。



これまでの部会としての考え方  
この時期に再検討が必要と考える

育てたい力	育てたい力の内容
感じる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出会った題材、材料、道具などから造形的な思いを湧き出させる</li> <li>・視覚や触覚などの様々な感覚を働かせながら、形やイメージをとらえる</li> <li>・美しいものや優れたもの、よりよいものに接して感動する</li> <li>・見方や考え方を自分で確かめたり話し合ったりし、共有するよさを見付けたり違いを理解したりする</li> </ul>
遊ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの世界に進んで働きかけ、五感を働かせ全身的に関わる</li> <li>・表し方を見付けたり試したりしながら、思いのままに多様な発想や構想を繰り返す</li> <li>・形や色を操作したり、場所の特徴を生かしたりする</li> <li>・材料や場所と出会い、自分で目的を見つけて発展させていく</li> </ul>
思う力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感じたことや想像したこと、伝えたいことなど表したいことを見付ける</li> <li>・形や色、イメージなどをもとに想像を膨らませる</li> <li>・目分らしい造形的な方法を追究したり、発見したりする</li> <li>・自分の思いを追究するために計画を立てる</li> </ul>
つかむ力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色や形、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、様々な表し方を工夫する</li> <li>・自分の思いを具体的に表現するため、表現に適した材料や用具を用いる</li> <li>・用具の特性に応じて、応用して使ったり自分だけの用具を見付けたりする</li> <li>・材料や用具についての経験を生かし表し方を深め、自分の表現方法をつくりだす</li> </ul>
広げる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域などの枠にとらわれない発展的な活動をする</li> <li>・先人の知恵や人々とのつながりに気づき、表現に生かす</li> <li>・写真やアニメーションなどの映像メディアを活用する</li> <li>・身の回りの生活や社会に能動的にかかわる</li> </ul>

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、作りだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。



表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 作りだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

**教科の目標に関して、形式的には大きな変化 3つの柱に基づいて構成**

## 改訂の趣旨

○図画工作科，美術科，芸術科（美術，工芸）においては，創造することの楽しさを感じるとともに，思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること，生活の中の造形や美術の働き，美術文化に関心を持って，生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと等に重点を置いて，その充実を図ってきたところである。

○一方で，感性や想像力等を豊かに働かせて，思考・判断し，表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや，生活を美しく豊かにする造形や美術の働き，美術文化についての実感的な理解を深め，生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については，更なる充実が求められるところである。

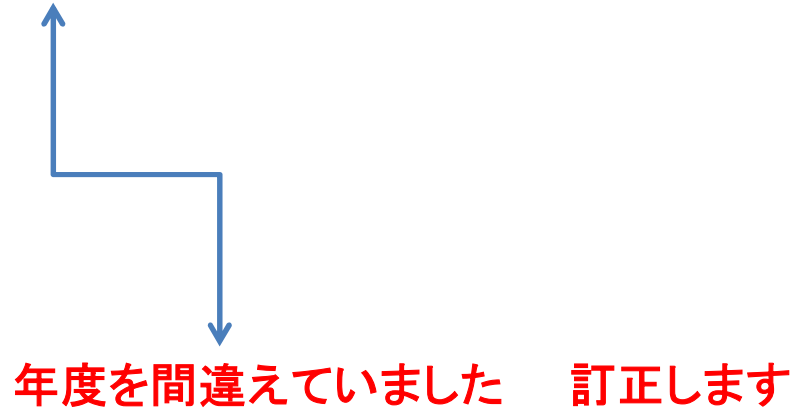
目標は、次のような視点を重視して改善を図る。

#### ア 教科の目標

- ・ 生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成を一層重視することを示す。
- ・ 育成を目指す資質・能力を、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理して示す。
- ・ 図画工作科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「造形的な見方・考え方」を働かせることを示す。
- ・ 育成を目指す資質・能力の三つの柱のそれぞれに「創造」を位置付け、図画工作科の学習が造形的な創造活動を目指していることを示す。



# 平成32年度 造形教育東北大会にむけて



今年度中に見直しを図り  
来年度は、その検討されたもので研究実践をスタートさせる  
平成32年度に行われる東北大会に向けてのスタートとするのがよい  
のではないかと考える

個人的には、独自のものではなく一般化され、部員以外にも説明の必要のないものが望ましいと考えている